

ても、戸穴荘は鎌倉御家人と関連がありそうである。古
い時代の小字名が今日散見されるのも、郷土史のために
は祖先からの有り難い置き土産と心得ている。戸穴荘問
題は始まったばかりで、更に検討を重ねる必要があると
思う。

参考資料

- 鎮西御家人の研究
- 佐伯氏一族の興亡
- 馬船常民
- 講座日本荘園史(5)
- 弥生町誌
- 玖珠郡史談四〇号



表紙解説

陸地峠は標高五四〇米、豊後と日向の国境である。
直川村は周囲に三〇〇〜五〇〇米の山々が連なり、他
村に行くには、何れも峠道を越えなければならなかった。
陸地峠もその一つである。

峠には黒沢から葛折りの道が最短であるが、現在では
赤木道の内の奥の赤木防災ダムの横から、林道陸地直川
線が開通しているが舗装は一部のみである。

明治十年(一八七七)の西南の役では、五月から七月
にかけて直川村で戦闘が続き、最後の激戦がここ陸地峠
で行われた。七月十五日より豪雨を好機として十六日、
官軍は二隊にわかれ、一隊は正面より攻撃し、一隊は杭
の内より迂回、同時に壕内に突入し、西郷軍はなす術も
なく敗走した。翌十七日昼下がり、篠つく雨の中に官軍
の勝鬨は陸地峠にこだました。しかし、多くの死傷者が
両軍共に出た。戦死した官軍兵士は佐伯岡の谷に十九名
埋葬されたが、西郷軍のそれは不明である。

(吹原に一基薩軍兵士の墓がある)
昭和五十七年三月二十日、直川村は村指定史跡として
記念碑を建立した。

山頂からの眺望は祖母・傾を望み抜群である。